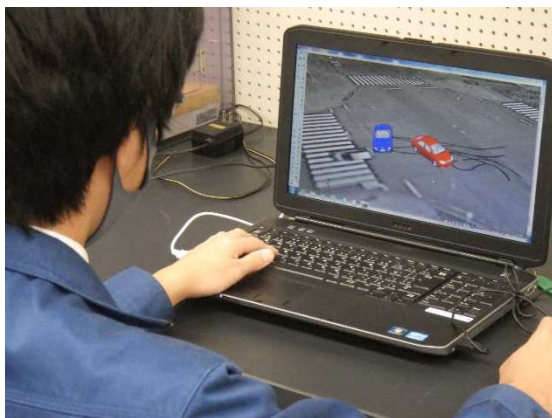


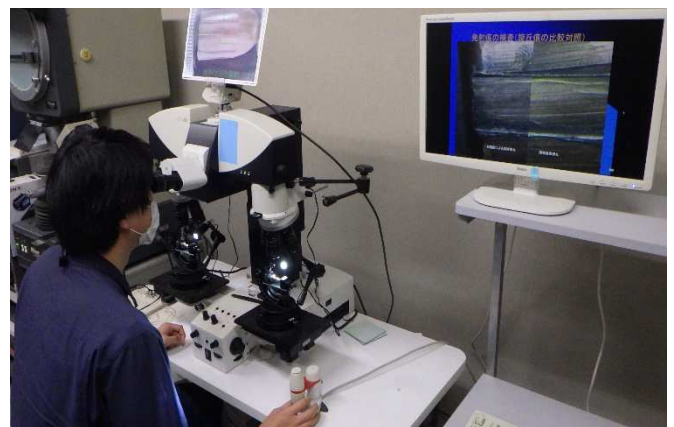
# 科学捜査研究所(科捜研)の紹介

科捜研の使命は、犯罪の立証に不可欠な証拠を科学の力で明らかにすることです。科捜研には4つの鑑定室があり各分野の専門的な能力を駆使した鑑定と研究で、犯罪の早期解決と治安維持に貢献しています。



科捜研の職員は**警察職員採用候補者試験（大卒程度）**の専門試験区分により採用されます。実施される試験区分は年ごとに違うため、県警の採用情報に注目してください。

たとえば、物理鑑定室の職員は試験区分「**機械**」又は「**電気**」で採用されます。科捜研の物理鑑定に興味のある方は、就職先の候補として考えてみてください。

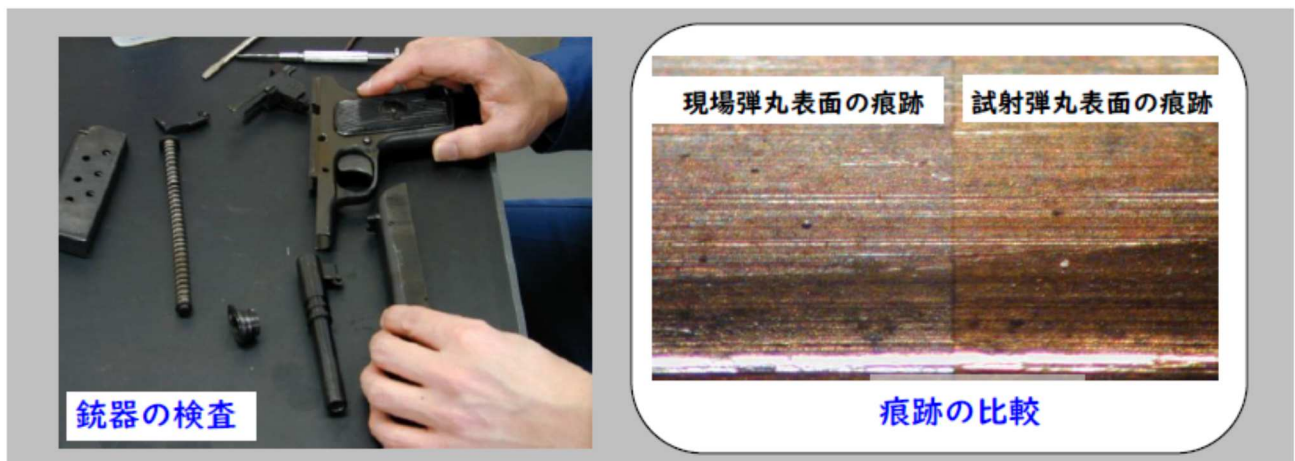


分野	これまでに実施された試験区分
物理鑑定	「機械」「電気」
法医学鑑定	「薬学」「農芸化学」
化学鑑定	「化学」「薬学」
文書心理鑑定	「心理」「電気」

# 物理鑑定室の主な鑑定業務

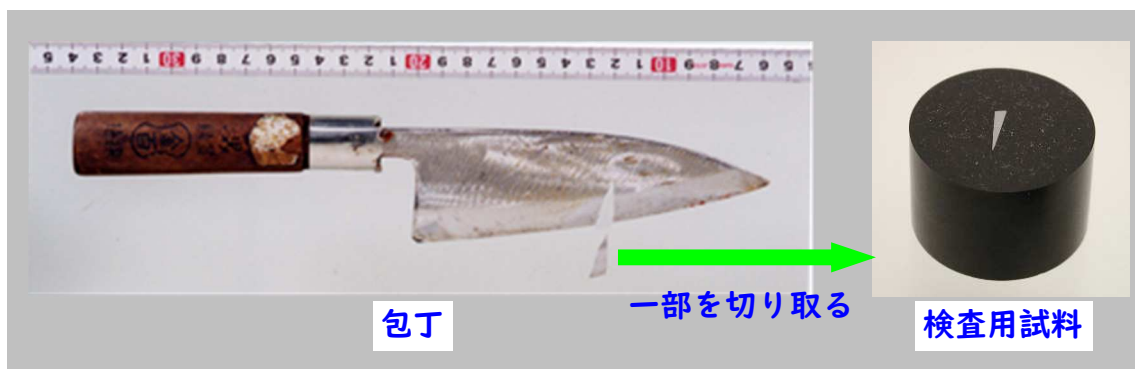
## ・銃器弾丸類の鑑定

銃器弾丸類の鑑定では、真正拳銃、改造拳銃、エアソフトガン等の試射を行って発射機能があるかどうかを鑑定します。また、現場遺留弾丸が容疑銃で発射されたものかどうかの鑑定も行います。



## ・刀剣類の鑑定

刀剣類の鑑定では、刀や包丁の刃体の一部を切り取り、その材質が鋼質性であるかどうかを鑑定します。



## ・画像鑑定

防犯カメラ等の画像を鮮明化し、犯人や犯行車両の特徴を明らかにして事件の早期解決に役立てます。

## ・現場鑑定

検査対象物が大きいため当所に持ち込むことが困難な資料や、現場においてのみ検査可能なものについては、現場出向により鑑定や検査を行います。



クレーン倒壊事故

### 作業事故の鑑定

生産設備、機械構造物等の破損部材の破断面の詳細な検査、事故発生時の生産設備運用状況等から、事故原因を調査します。



交通事故

### 交通事故の鑑定

事故車両相互に印象された衝突痕跡や車体の破損状況等を考慮した事故車両の突合わせを実施して、交通事故の衝突態様の調査等を行います。



爆発事故

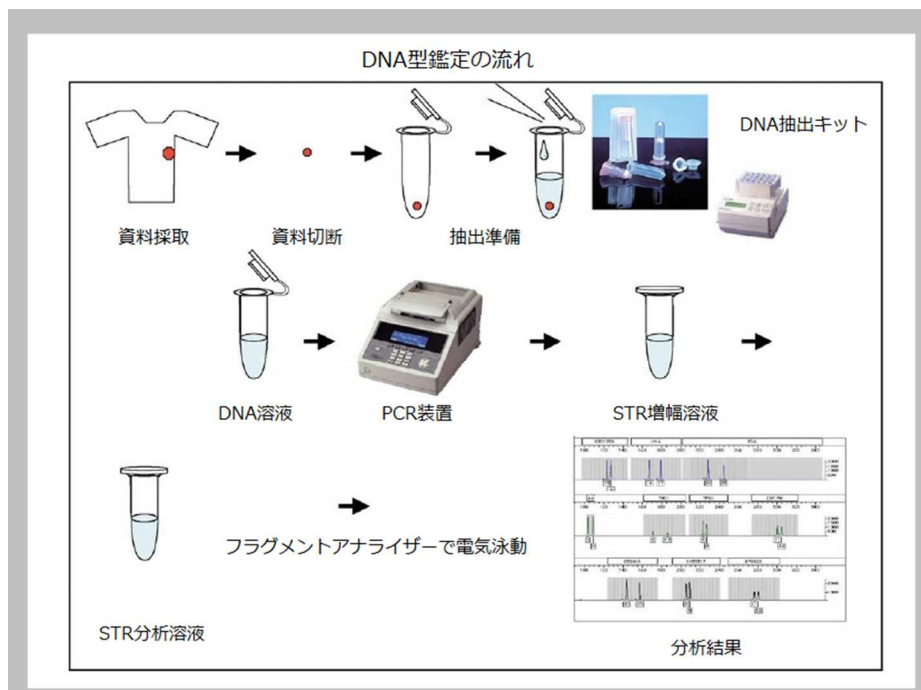
### 火災・爆発事故の鑑定

現場に残された燃烧残渣や飛散物等の状況を精査して、出火原因、出火場所、爆発した物や着火源の調査等を行います。

# 法医鑑定室の主な鑑定業務

## ・ DNA型鑑定

ヒトの細胞内に存在するDNA(デオキシリボ核酸)の塩基配列を分析し、個人を高精度で識別する鑑定方法です。日本の警察では平成元年から犯罪捜査に活用しています。



## ・ 三次元顔画像識別

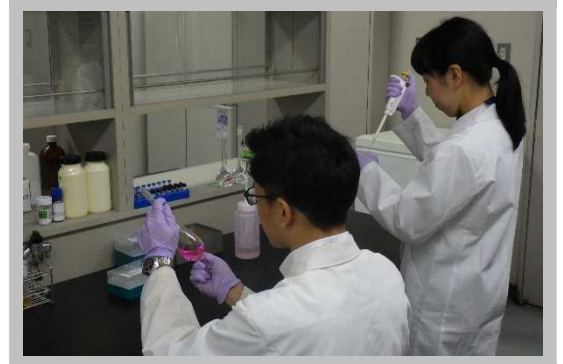
三次元顔画像識別システムで撮影した被疑者の顔画像と、防犯カメラ等に写った犯人の顔画像を重ね合わせて、同一性判断を行います。



# 化学鑑定室の主な鑑定業務

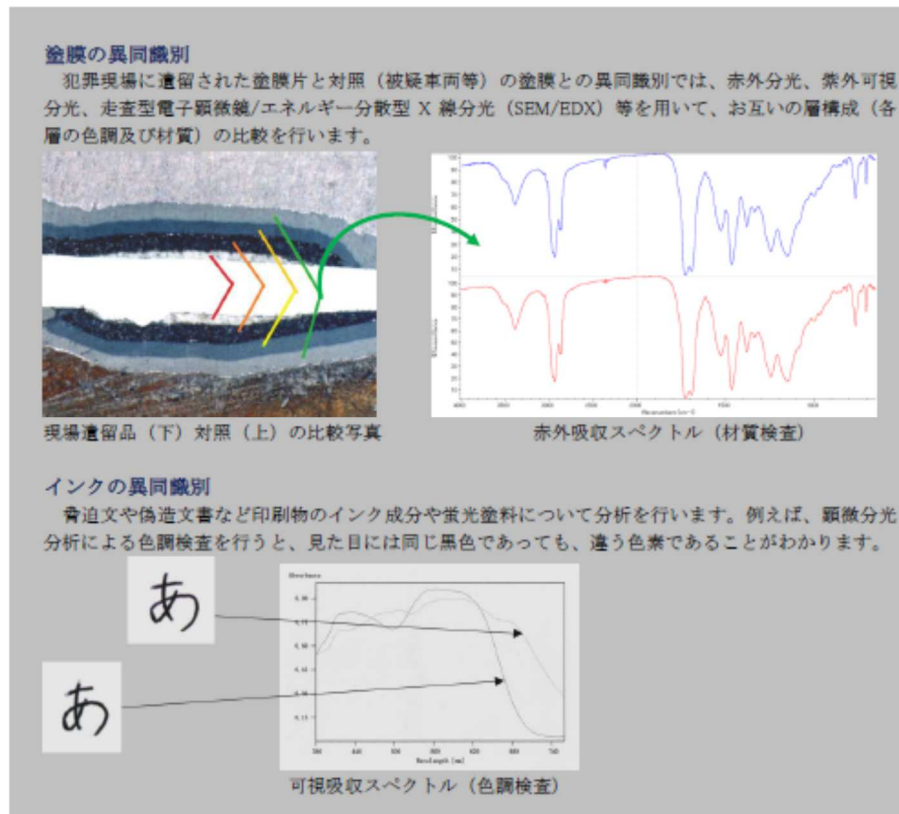
## ・薬毒物検査

違法薬物事件における覚醒剤、大麻、麻薬、危険ドラッグ等の検査、薬毒物混入事件における青酸化合物やヒ素、界面活性剤、睡眠薬、農薬の検査で、粉末や錠剤といったものから、血液や尿などの生体試料、食品まで様々な鑑定資料を扱います。



## ・工業製品検査

現場の遺留物と犯人を結びつける重要な鑑定として工業製品の同一性判断を行い、塗膜、繊維、プラスチック、ガラス片、印刷物のインク、土砂等の材質、成分、色調等を検査します。その他にも、火薬や爆薬の検査、火災現場資料からの油類の検査、金属類の材質検査等、様々な鑑定を行っています。



# 文書心理鑑定室の主な鑑定業務

## ・ポリグラフ検査

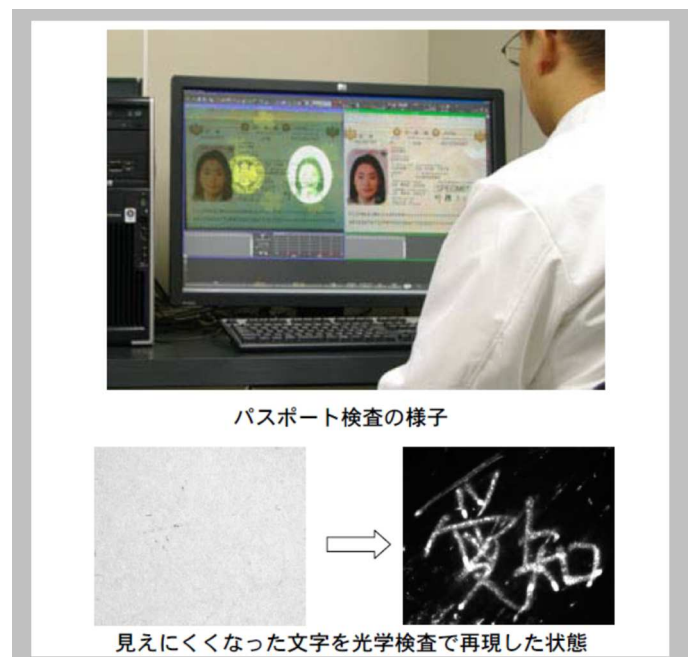
人間の様々な生理反応を記録する装置「ポリグラフ」を使用し、事件についての質問に対する生理反応から、容疑者が犯人しか知りえない事件の詳細を認識しているか、事件に関してどんな情報を隠しているかを推定し、捜査に役立てます。



## ・文書鑑定

事件関係者等が使用した手書き文字や印刷物等、文書全般に関する資料を取り扱います。筆跡、印影の識別、通貨や印刷物の真偽判別に加え、画像処理的な手法や静電気の性質を利用した検査機器を活用して、見えにくい文字の判読を行っています。

また、近年、金融機関等の窓口ではタブレット等を用いた電子署名による取引が増えています。こういった状況を受け、筆跡鑑定に情報処理、画像処理の知識を応用した研究も行われています。



## 研修制度

採用後は、まず愛知県警察学校に1ヶ月間入校し、警察職員としての心構えや礼式等を身につけた後に、科学捜査研究所に配属されます。半年後には、警察庁の法科学研修所（千葉県柏市）に入所して3ヶ月間の研修を受けます。ここでは全国都道府県警察に採用された専門職の仲間と寝食を共にしながら、鑑定技術職員として働くための基礎的な知識、技術を習得します。これ以降にも鑑定技術の各論に関する研修コースが用意されており、最新の技法や知見を常に学び続けることができます。

## 研究業務

鑑定技術職員としてそれぞれの専門分野で犯罪捜査の支援に携わるかわら、新たな知見や技術を開発し、学会発表や論文投稿を行っています。また、大学に研究員として所属し、学位取得を目指すこともできます。6ヶ月間の国内研修、3ヶ月間の在外研修など、見識を広めつつ研究をまとめる機会もあります。

最近の研究発表	
口頭発表先	日本法科学技術学会、日本法医学会、日本薬学会、日本法中毒学会、日本分析化学会
論文掲載誌	日本法科学技術学会誌、Legal Medicine、PLOS ONE

これまでの学位取得例
医学博士、薬学博士、理学博士、工学博士、農学博士